ヨシナカ新聞

植物の名前

５月に入り、爽やかな風が頬に当たり、散歩するにも格好の季節となりました。色んな花が咲き始め、辺りはカラーになったような気分。そんな中、弊社内でも、たくさんの植物が私達の心を癒してくれています。

この度、社内の各植物に名前入りのプレートが付きました。黄色いのがそれです。写真は、工場前（上部写真）と正面玄関（下部写真）の植物達です。ちなみに上部写真で一番手前で花が咲いているのが『ハナミズキ』です。正面玄関（下部写真）のプレートには左から『アセビ』、『ソヨゴ』、『サツキツツジ』、『キンモクセイ』と書いてあります。こうして名前入りのプレートが付くと植物がとても身近に感じられます。作業して下さった社員の方達に感謝です。それにしても植物の名前を知らなさ過ぎる私。

５月号
発行所
㈱北陸ヨシナカ
大阪本社工場
TEL:072-977-8861
FAX:072-976-0634

ヤグルマソウ?

実家の庭に咲いていた『ヤグルマソウ』。実は正式にはキク科の『ヤグルマギク』というそうです。観賞用として明治中期に渡来したと言われています。花の色は青、白、鮮紅、桃、紫紅など多彩。日当たりがよく、排水の良いところを好みます。表土が乾いたら、十分に水を与えます。

乾燥には強いが、水が多すぎると根腐れを起こします。咲き終わった花は摘み取ってやると、次々と花が咲くそうです。

K社員のピアノ奮戦記

第十六話　明日に架ける橋　その1

新しい曲に挑戦することになりました。もう少し難しい曲にしましょうとの先生のアドバイスで、選んだ曲はサイモン&ガーファンクルの『明日に架ける橋』。イントロとエンディングが大好きで、特にイントロのピアノは憧れでした。【弾けたら格好ええやろなぁ】単細胞頭の私は、ただその考えだけでこの曲に決めました。

いきなり右手は四つの音の和音が続いています。【ゆ、指が届かん】先生も、すぐそれを察知して一番低い音符を減らして下さいました。これならなんとかなりそうだ。

２週間くらいでイントロをなんとか押さえられるようになりました。

次に、歌の部分に入ります。ここからが厄介でした。やたら付点音符が出て来ます。付点四分音符は、四分音符と八分音符がセットになった長さ。頭ではわかるのですが、リズムがうまく取れません。

こんな時は分解に限ります。紙いっぱいに五線譜を上下に二つ書いて大きなオタマジャクシを一音ずつ書いていきます。そうして上の段と下の段の相関関係を把握していきます。【よし、これでこの小節は理解出来た】時間はかかりましたが、ようやく納得したリズムで弾けるようになりました。でもまた次の小節もしっかり付点が待っています。また同じように別の紙に大きな五線譜を書いて対応します。先生も私のこの作業に目を丸くして凄いと誉めてくださいました。

ステンレス豆知識

表面研磨した時の不動態皮膜は？

不動態皮膜については、これまでに数度掲載させて頂きましたが、サビを防ぐ大切な項目だと思いますのでもう一度。

ステンレス鋼表面に形成される不動態皮膜は、厚さが0.03nm(ナノニウム　100万分の3㎜)程度の含水Cr酸化物で、柔軟性に富み、すばやい自己補修作用（self healing作用、数十分の1秒以下で被膜が修復）を有す理想的な表面被膜です。

つまり、表面研磨で不動態皮膜が一瞬間除去されても、数十分の１秒以後には修復されているため、表面研磨が腐食損傷原因になることはありません。

ただし、不動態皮膜は含水Cr炭化物ですので、環境条件として水および酸素（溶酸素、酸化性成分）が、材料条件として高濃度のCr（母材に対して13ｗ%以上のCr）が必要になります。それらが十分存在しない環境条件下（隙間内部）や材料条件下では不動態皮膜が形成されにくく、その地点が腐食しやすくなります。

アルミサッシや塗装鋼では、化成処理皮膜や塗膜を一度傷付けると、下地が露出し、その地点から腐食が始まりますが、ステンレス鋼はその点は問題ありません。

以上より、ステンレス鋼は表面研磨等で不動態皮膜が除去されることはありませんが、激しい研磨によって著しく発熱したり、下地金属が変質（加工誘起マルテンサイト相や鋭敏化組織が生成）した場合は、下地金属の耐食性が多少変化することもあります。

参考資料：事例で探すステンレス鋼　（工業調査会）